

公表	事業所における自己評価結果（児童発達支援）
----	-----------------------

事業所名	ブルーミング・コフレ	公表日	令和8年 2月 26日
------	------------	-----	-------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	人数が少ない時間帯等を保護者にお伝えし、余裕のあるスペースを作っている。	児童の利用者が増えているため、手狭になっており、また死角などでもできるため、危険箇所がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	児童の活動を行う際、児童の状態によって職員を分けることもできていた。	反面児童の利用者が増えているため、曜日、時間帯、移動時、活動内容によっては危険な時間帯もあるため、改善は必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	児童の特性に応じて、部屋を分けて過ごしている。	児童に分かりやすい構造化までできていない。環境、入口などの段差で躓いたりする可能性もあるため、段差解消など配慮は必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		作業、ゆっくりと過ごすことができてスペースを作ることはできている。	他の児童の声など、聴きたくない児童に配慮した環境までできていない。（屋外に出たり、法人内の空いているスペースを利用）
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	個人の性格や相性、その時々状況によって居室を分けている。	他の児童の声など聴きたくない児童に配慮した環境ができていない。（屋外に出る、法人内の空いているスペースを利用することはできている）
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。		○	毎月会議の時間を設け、改善点などの話し合いを行う。パート職員にも空き時間に引き継ぎ・報告を行っている。	全職員（アルバイト含む）にまで周知ができていない部分もあるため、会議に参加できていない職員にも意見をもらう時間を設ける。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者との面談の場や送迎時に、そこで保護者からのご意見を聞いている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	業務内でパート職員と意見交換等を行い、改善案などを確認している。	全職員（アルバイト含む）に周知ができていない部分もあるため、会議に参加できていない職員にも周知していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		法人として事業所ごとに交替で第三者評価の受審を行っているが、ブルーミング・コフレとしては今年度は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		個人の強みを見つけられるようサポートを行っている。	職員と話し合いながら計画を作成しているが、こどものニーズなどアセスメントしきれていない部分もある。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○	会議の時間を設け、改善点などの話し合いを行う。パート職員にも空き時間に引き継ぎ・報告を行っている	児童発達支援管理責任者が主に作成しており、また全体職員への引き継ぎ等を行っているが、「こどもの最善の利益」まで検討ができていない部分もあると思われる。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○	会議の時間を設け、改善点などの話し合いを行う。パート職員にも空き時間に引き継ぎ・報告を行っている	児童発達支援管理責任者が主に作成しており、全体職員への共通理解は不十分な点が多いため、今後、共有する場面が必要である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		年度初めにアセスメントシートを保護者に配布し、記載していただき、現在の状況を確認していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童個人の強みを見つけられるようサポートを行っている。	「本人支援」の支援内容が多く、今後、「移行支援」などの支援内容も盛り込んでいく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	日々の活動内容の方向性は理解できている。	一部の職員で活動プログラムの検討を行っているため、今後、職員が前日の午前中に案を出し、午後職員が揃った時点で再確認を行う

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	日々、利用される利用者に応じ、できそうな活動を取り入れていく。またそれらをヒントに近い活動も見つけていく。	個々の力に応じて「自分で活動内容」を決める支援も取り入れていきたい。また遠足などの遠くへの外出計画が行えていない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別で課題を行う時間、集団で活動を行う時間を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援開始前には職員が集まった段階で、当日利用される児童の支援の注意点などを話す。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後、次回利用の際の注意点など相談等を行っている。	勤務時間の都合で支援終了後の打ち合わせをできない職員もあり、共有が後日になってしまうこともある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援終了後、次回利用の際の注意点など相談等を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		特にアルバイト・パート職員への報告が十分に出来ない児童もいる。そのため、定期的に引き継ぎを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保育所等の見学を行い、児童の接し方などアドバイスいただく。	今後、医療機関と連携が必要な児童が利用される場合は行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		今年度は幼稚園、保育園間の情報共有ができていないため、2月、3月の間に行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	お迎え時、担当の先生等と情報共有を行っていく。	支援内容等について詳しい内容の共有が出来ていない部分もあるため、改めて学校との情報共有を行っていく必要がある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の公園で地域の子供たちと出会う程度の活動しか行えていないが、中には顔見知りの方も多く、声をかけていただく機会も多いため、大切にしていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時やお電話などで保護者と話し合う機会を設けている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	家族等が参加できる研修として今年度普通救命講習等を行った。	今後、外部から提供のあった研修会等でも保護者が参加できそうな研修等の情報提供を行っていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		保護者会なども通して定期的に説明を行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	現状、全ての保護者の方と面談の機会は行えていないが、順番に保護者面談の機会を設けている。	現状、全ての保護者の方と面談が行えていないため、順番に保護者面談の機会を設けていく。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	現状、全ての保護者の方と面談の機会は行っていないが、順番に保護者面談の機会を設けている。	現状、全ての保護者の方と面談が行えていないため、順番に保護者面談の機会を設けていく。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			○	年に数回、保護者会や研修会（普通救命講習）を行っている。	兄弟同士で交流で交流する機会は設けていないため、法人のイベント等で行えるようであれば声をかけていく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情、ご意見等についてはHP、保護者会等で説明している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			四日市福祉会の広報や、保護者にその日の活動などできる範囲で写真でお伝えしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。			○		写真、絵などで支援を行う場面を増やしているが、まだまだ出ていない部分も多いと感じている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			年に一度、法人内でプルフェスタやを通して地域に開放を行っている。法人内の事業所イベントのチラシを地域に配る機会も設けている。ボランティアの方の受入も行い、ゲームなど行っていたりしている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			マニュアル、職員への周知（安全計画に含まれる）を行っている。保護者にも保護者会の際も説明を行っている。	保護者会で説明等を行っているが、周知ができていない部分もあるため、今後も引き続き保護者会等で説明を行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			○	マニュアル、職員への周知（安全計画に含まれる）を行っている。保護者にも保護者会の際も説明を行っている。	安全管理の部分で研修等を行うが、危険が伴う場面も多かったため、引き続きヒヤリハット等で研修を行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。			○		安全計画を保護者への周知ができていないため、保護者会等で安全計画の説明等も行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				職員会議等の時間を設けて情報の共有を行っているが一部の職員（アルバイト含む）に対して十分に共有が行えていない部分もあるため、全職員への周知と再確認を今一度行っていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				